

最近のSAT実施状況

－テストの内容構成と連続受験者の成績変化を中心に－

研究開発部試験方法研究部門 平 直 樹

平成9年7月27日から8月17日までの間、文部省在外研究員として海外出張を命ぜられ、教育テストサービス(ETS, Educational Testing Service: 以後、ETSと記す)等のテスト機関を中心にアメリカの大学入学者選抜資料に関する情報収集を行った。本稿は、その時入手した資料などを基に、ETSが実施している「教育評価テスト(SAT, Scholastic Assessment Test: 以後、SATと記す)」の最近の実施状況についてまとめたものである。なお、基本的に1997-98年度についての報告が中心であるが、一部の内容がそれ以前の年度の資料に依っていることをお許しいただきたい。

1. SATプログラムの概要

1947年に大学入試協会(CEEB, The College Entrance Examination Board, 現在はCB, The College Board: 以後、カレッジボードと記す)などを母体に設立されたETSは、設立当初から奨学金の分配や大学入学者

選抜に利用することを目的とした「教育適性テスト(SAT, Scholastic Aptitude Test)」のプログラムを引き継いだ。その後、「SAT」という略称こそ変わっていないが、1994年3月には現在のように「教育評価テスト(Scholastic Assessment Test)」と名称が改まり、テストの構成も変わって現在に至っている。以前からのSATは「SAT I: 推論テスト(Reasoning Test)」に変更となり、従来の「科目別テスト(Subject Tests)」を拡張した「SAT II: 科目別テスト(Subject Test)」を加え、従前とは異なる新たなSATプログラムとなっている。

表には1997-98年度のSATプログラムの構成及び実施スケジュールが示されている。表中に●で付した項目が該当日に実施されたテストである。実施日はすべて土曜日であるが、宗教上の理由で土曜日の受験が不可能な者のみ、翌日の日曜日に受験することができる。なお、表中のテスト科目名の訳

出責任は筆者にある。

表からも明らかな通り、SATプログラムは、1年間に7回の実施機会(すなわち、受験者から見れば受験機

会)が設けられている。SAT I についてはその全部の機会に受験可能であるが、SAT II の実施機会は科目によって異なり、年1～6回となっている。

表. 1997-98年度SAT実施内容及びスケジュール

テスト実施日	'97/10/4	11/1	12/6	'98/1/24	3/28	5/2	6/6
SAT I: 推論テスト (Reasoning Test)	●	●	●	●	●	●	●
SAT II: 科目別テスト (Subject Tests)							
作文 (Writing)	●	●	●	●		●	●
文学 (Literature)	●	●	●	●		●	●
アメリカ史と社会科 (American History & Social Studies)	●	●	●	●		●	●
世界史 (World History)			●				●
数学レベル I (Math Level I)	●			●			
数学レベル I C (Math Level I C)	●	●	●	●		●	●
数学レベル II C (Math Level II C)	●	●	●	●		●	●
生物 (Biology)	●			●		●	
生物 生態/分子 (Biology E/M)	●	●	●	●		●	●
化学 (Chemistry)	●	●	●	●		●	●
物理 (Physics)	●	●	●	●		●	●
外国語 (Languages)							
読解のみ (Reading Only)							
フランス語 (French)	●		●	●		●	●
ドイツ語 (German)							●
現代ヘブール語 (Modern Hebrew)							●
イタリア語 (Italian)			●				●
ラテン語 (Latin)			●				●
スペイン語 (Spanish)	●		●	●		●	●
読解及びリスニング (Reading and Listening)							
中国語 (Chinese)		●					
フランス語 (French)		●					
ドイツ語 (German)		●					
日本語 (Japanese)		●					
韓国語 (Korean)		●					
スペイン語 (Spanish)		●					
英語習熟度 (English Proficiency)		●					

1-1. 受験手続き, 受験料, 成績提供

この節の記述は、主に1995-96年度の資料に基づく。なお、受験料については、1998-99年度のものである。

SATの受験希望者は、規定の期日までに登録を行い、費用を払い込む。1回の登録は1回の受験機会にのみ有効である。受験者はSAT I かSAT II のいずれかを選択して受験する。SAT II については、1回の受験機会につき最大3科目の受験が可能である。SAT II を受験する場合、登録時に受験科目を選択するが、リスニング科目を除き、当日に受験科目を変更することも可能である。

試験場は、高校が利用されることが多いようである。実施スケジュールは試験場ごとに異なり、7回のSATの実施機会のうち、実際にその場所で受験可能なのは1～2回という試験場もある。受験者は、受験会場を第2希望まで選択することができる。会場の決定は登録した順番に行われるため、登録が遅いと希望する場所で受験できないこともある。その場合、希望した会場に最も近い試験場が割り振られる。

SAT I を受験する場合の費用は\$23.00であり、この中に基本登録・成績提供料が含まれる。この基本料金に含まれる大学または奨学金プログラムへの成績提供サービスは、最高4件までとなっている。SAT II を受験す

る場合は、基本登録・成績提供料\$13.00に加えて科目ごとの受験料を支払う。作文テストは\$10.00、リスニングテスト付きの外国語科目は\$7.00、その他の科目は\$5.00となっている。さらに、追加費用を支払うことができる。例えば、通常の登録日以降の登録料(late registration)は\$15.00、成績提供1件追加ごとに\$6.50などと規定されている。

過去にもSATを受験したことがある場合には、自動的に過去の記録も含めた成績提供が行われる。一部の成績を削除するなどの選択を行うことはできない。なお、SAT II については、科目ごとに大学等の機関への成績通知を留保する得点選択 (Score Choice) というサービスもある。得点選択を指定した科目については、自分の成績を確認した後で留保を解除し、改めて成績提供を依頼する(有料)ことも可能であるし、もう一度当該科目を勉強し直して、再度受験することも可能である。受験者本人への成績の通知は原則として試験終了後5週間ころを目処に行われる。なお、留保を解いてしまった場合には、再度成績を秘匿することはできない。

1-2. SAT I の概要

SAT I は、大学での学業の成功を予測する指標である、と位置づけられ

ている。受験希望者に対するカレッジボードの説明によると、「高校の学業成績記録の成績判定基準が学校によってまちまちであるのに対し、SAT Iは同じ年度に受ける約200万人を超える受験者との比較の上で、自分が何を知り、何ができるのかを大学に示すチャンスである」とされている。

SAT Iは「言語 (Verbal)」と「数学 (Mathematics)」の2つの領域で構成される合計3時間のテストであり、主に多肢選択式問題から成る。「言語」のテストは、読解力、文章の部分間の関連性を認識する能力、対になった単語の関連付けをする能力を測っているとされる。具体的には、類推 (Analogies)、文章完成 (Sentence Completions)、批評的読解 (Critical Reading) の3種類の問題形式がある。「言語」領域の問題は全部で78問出題される。「数学」のテストは、算術、代数、幾何の問題を解く能力を測っているとされる。問題形式には、標準的な多肢選択式の他に、数量比較、数値を解答する形式がある。「数学」領域の問題は全部で60問出題される。「数学」の解答には電卓の使用が許されており、条件に合致したものを自分で持参することになっている。

試験時間は全部で7つのセクションに分かれている。「言語」、「数学」ともにそれぞれ30分のセクションが2

回、15分のセクションが1回行われる。さらに、それに加えて、「言語」、「数学」いずれかの領域で30分間の等化用 (equating) セクションが行われる。SAT Iで実施され、実用に供される試験問題項目 (以下、項目と記す) は、我が国の入学試験とは異なり、初出のものではない。まず、予備調査で項目の取捨選択が行われ、その後、困難度等、項目の統計的性質を定める等化という手続きを経て、本番のテスト問題として用いられることになる。等化用セクションは、新規作成項目の予備調査と、予備調査を既に経て項目プールに残された項目の等化とを兼ねて行われている。受験者は、どのセクションが等化用であったのかを知ることはできない。等化用セクションの結果は、個人成績には組み入れられない。

SAT Iの成績は、「言語」、「数学」それぞれの領域について200点-800点の尺度得点で表される。すべて無回答の場合には200点が与えられる。最初に素得点が算出され、その後、問題の難しさを統計的に微調整した上で尺度得点に変換される。素得点の算出については、それぞれの問題につき「正解」が1点、「無解答」は0点と採点されるが、多肢選択問題に誤答した場合には、あて推量による解答を抑止するために「1/誤答選択肢数」ポイント減点されることになっている。したがっ

て、当てずっぽうに答えることはプラスにならない可能性がある。また、理論的には素得点が負になることもあり得る。さらに、診断的情報として、「言語」においては3つの下位領域 (類推、文章完成、批評的読解)、「数学」では2つの下位領域 (算術・代数、幾何) ごとの成績が受験者に報告される。

SAT Iは、コンピュータテストとして受験することも可能である。問題内容は通常のいわゆる紙筆テストと同じであるが、出題数は少なく済む。コンピュータテストの最大のメリットは、実施スケジュールに拘束されないことである。受験者は、10月半ばから翌年5月までの中で自分の都合のよい日 (ただし、日曜日を除く) を1日選んで、全米で合計225か所に設けられているテストセンターのいずれかに行き、そこで受験する。ただし、受験機会は当該年度1回のみに制限されている。また、受験直後に非公式な成績を知ることできる。しかしながら、受験料は\$75.00とかなり割高である。

1-3. SAT IIの概要

より一般的な能力を測定を目的とするSAT Iとは異なり、SAT IIでは特定科目の知識とその応用能力を測定する、とされている。16科目、20種類のテストとしてスタートしたSAT IIであるが、現在では、24種類のテストが

行われている。各科目とも、試験時間は1時間である。科目の見直しは不断に行われているようで、例えば、「生物 生態/分子」という科目は1997-98年度に新たに導入されたものである。逆に、電卓の使用が許されない「数学レベル I」は1998年1月をもって廃止となった。

「作文」では、1時間の試験時間の中で、20分間の小論文 (Essay) テストと、60問の多肢選択問題が出題される。そのうち、小論文では、特別な知識が必要とされない課題 (Topic) が一つ与えられ、それにかかわる文章を時間内に書くことが求められる。1つの答案につき、経験を積んだ2名の高校・大学教員が独立に1点-6点の総合評価で採点を行う。採点結果が2点以上異なった場合には、第3の採点者が調整を行う。2名の採点結果の合計点が、小論文に関する素得点となる。

「数学レベル I / IC」、「数学レベル II C」及びSAT Iの「数学」領域の内容的違いは、出題範囲の違いに帰することができると思われる。なお、「数学レベル IC」、「数学レベル II C」においても、電卓利用を前提とする問題が用意されている。

7種類の外国語科目に用意されているリスニングテストについては、登録の段階で受験の意思を示すことが必要であり、当日の受験科目変更は許され

ない。リスニングテストはカセットテープを用いて行われる。テープの再生機は一定の条件に合致したものを自分で用意しなければならない。「英語習熟度」以外の6科目については、リスニングテストの時間は20分間である。

「英語習熟度」は、英語を母語としない者のための試験である。リスニングのセクションは2つに分かれている。一つは会話場面での適切な応答を選ぶもので、時間は10分間である。もう一つはテープから流れる短い文章、会話、アナウンスなどの内容に則した質問に解答するもので、時間は20分間である。

SATⅡ各科目の成績は、「英語習熟度」を除いてSATⅠと同じ200点－800点の尺度得点で表される。下位領域の得点が受験者に通知される科目については、それぞれの領域の成績は、20点－80点の尺度得点で表される。なお、「英語習熟度」の場合には、リスニングと読解の下位領域について、習熟度評価(Proficiency Ratings)が5段階で定義されており、901点－999点の尺度得点による成績とともに報告されることになっている。

1-4. アメリカ国外での受験

アメリカ合衆国及びプエルトリコ以外においても、153の国及び地域の514か所のテストセンターでSATの受験が可能である。しかしながら、国内の

受験条件と比較すると幾つかの点でハండిキャップがある。まず、受験機会の問題である。アメリカ国内と同様にテストセンターごとに実施スケジュールが異なっている。年1～6回の実施であるが、利便性を考えると現実的に受験可能な機会は限られてくる場合が多いであろう。3月28日実施分はアメリカ国内のみでの実施となっている。また、アメリカ国外では、SATⅡのリスニングテストを含む科目を受験することはできない。

2. SATⅠ連続受験者とその成績変化

SATⅠ、SATⅡともに、受験回数制限はない。したがって、受験者本人が満足する成績が得られるまで受験を繰り返すことは珍しくないし、また、必ずしも高校最終年度(4年制の高校の場合、第4学年)になって初めてSATを受験するのが典型的な訳でもない。ちなみに、1996年に高校最終年度を迎えた大学受験希望者層(1996 College Bound Senior Cohort:以後、1996年コホート等と記す)で、SATの受験登録をしたことがある者は約115万人、そのうち、SATⅠの成績記録が残っている者は約108万人である。最後にSATⅠを受験したのが最終学年(Senior)になってからである者は約75万人、第3学年(Junior)である者は約33万人である。全体から見れば

少数ながら、第2学年(Sophomore)に受験したのが最後の機会である者も約5,000人、第1学年(Freshman)が最後の者も約800人いる。

さて、1997年コホートでSATⅠの成績が残っている者は約113万人である。そのうち、第2学年から受験している者は約3万人(3.0%)であり、そのうち約4,000人を除いては第3学年以降もSATⅠを受験してる。以下の報告は、1997年コホートのうち、第3学年、第4学年におけるSATⅠの成績が残っている約112万人についてのものである。なお、第2学年以前の成績については考慮に入られていない。また、6回以上受験した者については集計から省かれている。

第3～4学年の2年間で、1度だけSATⅠを受験している者(以後、1回受験者等と記す)は約57万人(50.6%)、2回受験者は約43万人(38.1%)、3回受験者は約11万人(9.6%)、4回受験者は約16,000人(1.4%)、5回受験者は約2,000人(0.2%)であった。尺度得点の平均値は、いずれも最後の受験機会が最も高い。「言語」においては1回受験者が492、2回受験者が520、3回受験者が515、4回受験者が499、5回受験者が480となっている。したがって、最終受験時の平均値で見た場合の順位は、上から2回受験者、3回受験者、1回受験者、4回受験者、5回受験者であ

るが、それぞれ第1回の受験時点での成績を基にしても同じ順位である。「数学」においては、最後の受験機会の平均値は、1回受験者が492、2回受験者が528、3回受験者が537、4回受験者が532、5回受験者が526となっている。したがって、最終受験時の平均値で見た場合の順位は、上から3回受験者、4回受験者、2回受験者、5回受験者、1回受験者であり、「言語」とは様相が違う。また、第1回の受験時点での成績は、2回受験者、3回受験者、4回受験者、1回受験者、5回受験者の順であり、繰り返し受験をすることによって順位が逆転する現象が見られている。

次に、1回目の受験時と最終受験時と比較した場合の尺度得点の平均値の伸びは、「言語」領域では2回受験者が13、3回受験者が22、4回受験者が31、5回受験者が38である。「数学」領域では、2回受験者が16、3回受験者が27、4回受験者が37、5回受験者が45となっている。

なお、1996-97年の大学入学者選抜関係者(Admission Staff)向けの資料によれば、繰り返し受験を行うことによって25人中1人は尺度得点を100ポイント以上伸ばすが、逆に100人中1人は100ポイント以上成績を落とすとされている。また、実質的に成績が変化したと考えられるのは、60ポイン

ト以上の変化が見られた場合である、
という注意が記されている。

文 献

荒井克弘 1985. SAT (進学適性テスト) の近況について IDE現代の高等教育, 264, 64-69.

Educational Testing Service 1996. *Building Equity : 1996 Annual Report.*

Educational Testing Service 1998. *Test Taking Patterns and Average Score Gains for the SAT I, Report No. SR-98-05.*

The College Board 1995a. *1995 Profile of SAT Program Test Takers : College-Bound Seniors National Report.*

The College Board 1995b. *1995-96 Registration Bulletin for the SAT*

Program : Northeastern Edition.
The College Board 1996a. *Admission Staff Handbook for the SAT Program 1996-97.*

The College Board 1996b. *1996 College-Bound Seniors : A Profile of SAT Program Test Takers National Report.*

The College Board 1997a. *1997-98 Bulletin, SAT Program : Computerized SAT, Test Preparation and Registration.*

The College Board 1997b. *SAT Program Registration Bulletin : 1997-98 International Edition.*

The College Board 1997c. *Taking the SAT I : Reasoning Test.*

The College Board 1997d. *Taking the SAT II : Subject Test.*